

小 峯 茂 嗣

このたび一般財団法人小峰研究所の理事長に就任しました、小峯茂嗣です。

小峰研究所の創設者である小峯茂之は、日本の精神医療の草創期における精神科医として、当時の小峰病院を拠点として医療活動に従事してきました。あわせて、大正期に「財団法人小峰研究所」を設立し、精神医学研究の振興にも尽力してきました。

現代社会では、精神疾患というよりもさらに広義の「こころの病」が広まっているようです。現在、小峰研究所では、「小峰クリニック」、「番町小峰クリニック」を運営し、対話を通じた診療に取り組んでいます。

ところで私自身は文系(社会科学)の人間で、国際関係—とりわけ紛争問題や平和構築を専門としており、アフリカやアジアの紛争経験国での国際協力 NGO 活動にかかわってきたり、大学での研究や教育に携わってきました。

創設者・小峯茂之の研究テーマとしては自殺や心中があり、様々な著作を残しているのですが、茂之は「戦争は社会の自殺である」と述べたそうです。社会を一つの有機体としてみたとき、戦争とは自らを傷つけ、破滅させている行為といえます。

「こころの病」はその時々を社会を映す鏡です。そして現代の社会は、差別や分断、可視不可視の暴力がいたる所にあります。またグローバル化がすすむ時代、私たちの暮らしは世界で起こる出来事とも深くかかわるようになり、地域社会でも様々な文化的背景を持つ人々との共生が求められています。

これからは「地球規模で考える心と社会の健康」を視野に入れて、事業に取り組んでいきたいと思えます。